

1 【題】

2

3

4 【氏名】

5

6

7 【所属】

8

9

10 【抄録】(450～600字)

11 目的：【対象疾患・動作・評価項目】に関する研究は数多く報告されているが、【臨床で実際に困っ  
12 ていること・判断に迷う場面】がしばしば認められる。特に、【これまで十分に検討されていな  
13 い要素】に着目した報告は限られている。また、先行研究の多くは【研究対象の限定】を対  
14 象としており、【本研究で対象とする集団】を含めた検討は十分とは言えない。

15 そこで、本研究の目的は、【対象者】を対象として、【課題動作・評価項目】に着目し、【明  
16 らかにしたい関係性・特徴・違い】を明らかにすることである。

17 方法：【対象と対象者数】を対象とした。【課題動作】を【測定方法】により計測し、【比較方  
18 法】にて比較した。統計解析には【統計手法】を用いた。

19 結果：【課題動作における結果を端的に記載】

20 考察：【主要結果の解釈と先行研究との関連を簡潔に述べる】。

21 結論：【本研究で得られた知見を端的に示す】

22

23 キーワード：

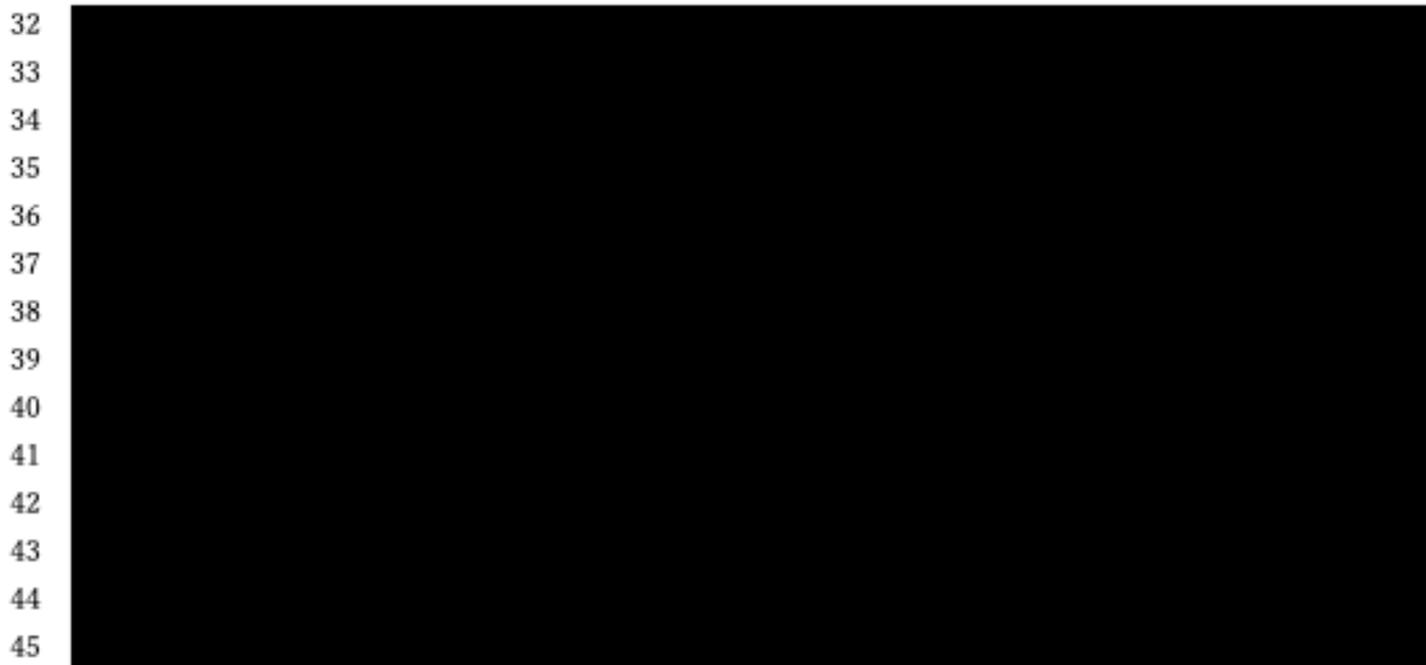
24 Key words：

25

26 I. はじめに

27 [ 課題動作 ] は、臨床において評価および介入の判断が求められる重要な動作である。特に、[ 臨床  
28 で実際に困っていること・判断に迷う場面 ] において、その解釈には一定の難しさがある。[ 具体  
29 例 ]。

30 これまで、[ 課題動作における過去の報告 ] がなされており、[ 主な知見 ] が示されている。しか  
31 し、[ 過去の報告の限界や未整理の点 ] も指摘されている。



46 II. 方法

47 1. 対象

48 2. 倫理的配慮

49 3. 方法

50 1) 計測環境

51 2) 計測装置

52 3) 解析

53 4) 統計

54

55

56

57 III. 結果

58

59

60

61

62

63

64 IV. 考察

65 本研究では、[ 課題動作 ]に着目し、[ 測定方法 ]を用いて検討した結果、[ 主要な結果 ]が示  
66 された。

67 過去の報告では、[ 過去の知見 ]とされているが、本研究の結果はこれらと比較して、[ 今回の結  
68 果 ]を示した。これらの知見は、[ 臨床における意義 ]を示唆するものである。

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86 V. 結論

87

88

89

90

91 ■文献

92 1)

93